

【派遣】信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための
学生への海外活動(短期)支援実施状況および成果

プログラム名	オックスフォード大学における人文学部短期研修プログラム	
学部・研究科名	人文学部	
プログラム実施期間	2022年8月30日～9月12日	
研修先(国・都市・施設名)	英国・オックスフォード・CIE Oxford	
参加者数	7名	知の森からの支援者 : 7名
プログラム概要	<p>人文学を学ぶ上で英語というツールをいかに活用すればよいか、その基礎となる考え方や能力を身につけることを目標とするプログラム。</p> <p>この短期研修では、参加者は英語という「ツール」で人文学の授業を受け、それを踏まえて自分の考えを英語でプレゼンテーションを行う。本活動を通して参加者は人文学部での学びのなかに世界とつながる視点が数多く存在する事実を認識することになる。そのためこの研修では1) 人文学関連の英語テキストを読み解く力、2) 海外の図書館での資料調査を遂行する力、3) 英語で討論を行う力、4) 自らの考えを論理的に英語でプレゼンテーションする力を育てることを具体的目標とする。</p>	

実施状況・成果

研修期間中、参加者は、午前は芸術・歴史・哲学・心理学・ジャーナリズム・文学・ビジネスなどのテーマについて英語で授業を受け、午後は午前の授業に即したフィールド研修、各自で決めたテーマに沿ったプロジェクトワークと最終日の英語プレゼンテーションに向けた準備に、研修校の教員の指導のもと取り組んだ(すべて英語で行われる)。また、オックスフォード大学の現役学生と直接対話をするセッションも行われた。

参加者はすべて現地のホストファミリーのもとでホームステイし、日常的な英語でのコミュニケーションを経験した。ホストファミリーの家族構成や人種・エスニシティは多様であり、単なる日英の異文化交流ではなく、現代のイギリスの都市では当たり前な多人数間の異文化交流を実体験した。

本プログラムは、新型コロナウイルスのパンデミック以後停止しており、コロナ禍での初の実施となった。イギリスをはじめ欧米社会はすでにポスト・コロナの社会生活へとシフトしていたとは言え、参加者および保護者のみならず、関係する教職員は、感染等によるプログラムやスケジュール変更のリスクを大いに懸念していた。とりわけ、出国直前まで、帰国(日本入国)前のPCR検査による陰性確認が必須とされていたため、出国前の感染により参加できなくなるリスク以上に、現地で感染しスケジュールどおりに帰国できなくなるリスクを懸念していたが、結果として、感染者ゼロでスケジュールどおりにプログラムを実施できた。

研修校からのレポートでは、すべての参加学生が高く評価されており、苦勞しながらも真剣に研修に取り組んだことがうかがい知れる。参加学生へのアンケートからも、本研修での経験を今後につなげたいとのポジティブな思いが多く読み取れた。参加学生の中には、英語でのコミュニケーションが上手にできず、悔しい思いをした者もいたようであるが、それにより英語力を向上させたいという思いを強くしたであろうし、思った以上にうまく研修中のプロジェクト・ワークに取り組むことができ、英語でのコミュニケーションにもさほど困難を感じなかった学生は、長期の留学を実現させたいという思いを強くしたのではないだろうか。

学生の声①-人文学部 学生

コロナ禍の海外研修で不安に思うこともあったが、大きな問題もなく終了してよかった。この研修で培った英語のスキルやコミュニケーション能力、状況を把握する能力を無駄にせず、これからの日常生活の中でも活かしていきたい。

【プロジェクト・ワークについて】自ら主体的に取り組むことが出来たと思う。講師のアドバイスも簡潔かつ的確でわかりやすかった。プレゼンテーション本番は、信州大学の学生だけでなく他の大学の学生も一緒に行ったため緊張したが、それぞれが違うテーマで発表を行ったため、面白かった。

学生の声②-人文学部 学生

【プロジェクト・ワークについて】とても大変だったが、面白かった。(イギリスの食文化についての)プレゼンテーション制作に向け、イギリスについて調べれば調べるほど、面白い記事が見つかり、興味深かった。また、日本では難しい、実際に現地の人に聞いたり、自分自身が現地の料理を食べて感想を書くことができたことは、自分にとって素晴らしい経験であると感じた。他大学の学生と合同であったこともあり、自分以外の人のプレゼンテーションを聴くこともいい経験になったと思う。どれも興味深い内容ばかりで、最終プレゼンテーションはあっという間に終わってしまった。

研修校での授業風景



大英博物館訪問時の集合写真

